

子どもたちの「知りたい」気持ちを高めて、読む力を応援！

6月になり雨の日が続いています。学校図書館は多くの児童でにぎわっています。

学校に慣れてきた1年生も図書館に来て、本を探しています。しかし、まだまだ自分に合う本は探し出せず、表紙の絵だけで選んでは、すぐに「おもしろくない。」「読めない。」と返して返すことが多くあります。

そんな時こそ学校司書の出番です。

先日の1年生の図書の時間（学校図書館を活用する授業時間）のことです。ブックトークでカエルの本を紹介しました。最初、子ども達は表紙のカエルの写真を見ては「気持ち悪い。」などと言っていました。司書が「日本には何種類のカエルがいると思う？」と尋ね、「世界にはカエルよりオタマジャクシの時の方が大きいカエルもいるんだよ。」と、本の魅力をじっくりと紹介すると子ども達は興味津々で食い入るように見ます。その後は「カエルって思ったよりかわいい。」「色んな色のカエルがいてきれい。」などと言って次々にカエルの本を読んでいました。カエルを通して、地域の自然にも関心が広がるというのを考えて、多様な本をすすめています。

現在本校でも、ワールドカップに合わせて「ワールドカップ」のコーナーを図書館に作っています。図書委員会の児童と一緒にクイズを考えたり、国旗を描いて飾り、トーナメント表を作ったりしています。6年生のクラスに、ブックトークをして『W杯をたたかうボール』（ポプラ社）を紹介しました。この本は、ワールドカップの陰の主役はボールという視点で書いてあり、大会ごとにボールが進化し、その開発に日本の会社が関わっているということも書いてあります。その話をきいた子どもたちからは「どのボールも同じだと思っていた。」「日本の会社がそれを作っているなんてすごい！」「今度からボールもよく見てみよう。」などの感想や「この本を紹介してくれてありがとう。」という声もきかれました。関心がなさそうだった女子たちもそのコーナーの本を手にとってみるようになりました。

一人ひとりの子どもの成長を見て、知って、その子にあった本を紹介する、また自校にある本を把握し、計画的に整備をするのですぐに必要な本が用意できる。そのような、学校司書ならではの仕事をしっかりして、子どもたちの自発的な読書を励まし、読む力がつくように支援していきたいと考えています。

また先生方との信頼関係も複数年同じ司書が継続勤務しているからこそ、強くなっています。「この教材の授業をするときはこの本が役に立つ。」とか「あの先生はこの単元で図書館を使ってくれるな。」と、教育計画を見通して資料集めをし、先生たちと打ち合わせをして、授業のサポートをしています。今年は図書費が増額しているので、授業に直結し、授業の幅を広げる図書をしっかり購入できます！

これからも、児童や先生方の様々なリクエストやレファレンスに応え、学校図書館の働きで豊かな教育の展開の寄与したい、そのためにも、一校に一人、学校司書として（専門性をもって）継続して勤務できる制度が大変重要です。